

改革市民の会

代表 大倉 裕一 様

改革市民の会  
管外行政視察復命書

視 察 期 日 : R6.3.24 (日) ~ R6.3.26 (火)

視 察 先 : 岐阜県 大垣市  
滋賀県 近江八幡市

参 加 者 : 議 員 大倉 裕一  
議 員 谷口 徹  
議 員 野崎 伸也



令和 6年 4月 1日

## 会派合同 視察復命

改革市民の会 代表 大倉裕一  
野崎伸也  
谷口 徹

視察日：令和6年3月25日（月）

視察先：岐阜名古屋貨物運送（株）

岐阜県羽島郡笠松町円城寺小柳587

調査項目：2024問題について

### （1）事業内容及び概要

中型及び大型トラックを35台所有

トラックの約半分が食品輸送→中距離運送

残りは家具やサッシの運送→長距離運送

○従業員について

- ・従業員は40名で、高齢化している。
- ・新入社員で60歳も居た。最高齢は73歳で若年者は40歳代。  
給料を上げたいと思っているが、荷主との契約に反映できていないのが現状。
- ・荷主との契約（運賃）料金を少しは上げていただいている。  
しかし、運賃が安い事を理由に契約を断る耐力は当社にはない。
- ・4、5年前から移動は高速道路利用を優先するように、ドライバーには指導している。
- ・労務管理も大変、気を使う4時間運転30分休憩4時間運転のパターンになるが、拘束できる時間は最長13時間。次の運転まで9時間空ける必要がある。  
今回の働き方改革では、眠くない時に寝れ、眠たい時に寝れない問題がある  
と思っている。

### （2）ドライバー不足の対応

- ・従業員の収入面で工夫している。  
現状として、総額30万円は支給する。以前は出来高払いのように荷が少ない時は、20万円台の頃もあった。
- ・ドライバーの給料を固定化して、仕事を転職しないように呼びかけている。

### (3) 今後の課題や問題点

- 働き方改革は理解するが、雇う側としては勤怠管理が大変である。  
ITで管理するにしても多額の導入経費が必要となるため、当社は導入していないし、今後も導入計画はない。

### ○質疑応答

質問→運送業に関する国の支援はどういった内容があるのか？

応答→国の支援は使った事がない。岐阜県の燃油高騰対策支援補助金は活用した。その程度。

質問→外国人ドライバーの雇用は考えられないか？

応答→正直なところ、運転技術や荷主のニーズにきちんと応えてくれるのか不安がある。

荷主と信頼関係で成り立っている部分もある。

質問→GPS管理システムの導入は？

応答→事務方は楽になると思っているが、導入は未定。ドライバーからすると嫌だと思う

質問→国や県に要望事項はありますか？

応答→①高速道路通行料金を割引する制度を創設していただきたい。

理由：働き方改革に取り組む中で、運送料金への反映が一部であり、高速道路通行料金が割引になると、その分をドライバーの収入に充てる事ができる

→②休憩する場所を整備、確保していただきたい。

理由：運転時間に制限があるためトラックを止めて休憩を取る必要があるが、トラックを止めるスペースがなく、駐車場を探すことで運転時間をオーバーする状況になるため。

→③高騰しているトラック燃料の補助制度を継続してほしい。

理由：①と同様、燃料代が安くできた分をドライバー給料に充てる事が可能となる。

## 会派合同 行政視察所見

議員名【 大 倉 裕 一 】

◆視 察 日：令和 6年 3月25日（月）

◆視 察 先：岐阜名古屋貨物運輸株式会社  
岐阜県羽島郡笠松町円城寺小柳587

◆調査項目：2024問題について

2024年問題について、岐阜名古屋貨物運輸株式会社を視察させていただきました。

経営者として、従業員の給与引き上げについては理解、協力は惜しまないが、荷主さんの運賃が以前のままだと経営が成り立たなくなるので、荷主さんにも理解と協力をお願いしたい。との事であった。

また、働き方改革の内容とドライバーの現状にソフト面、ハード面で整備に取り組む点等が視察で浮き彫りとなった。

この内容について、本市の同業者とも意見交換を行い、地方自治体で取り組み可能なもの、国の対応が望まれるものに整理を行い、視察が有効であった事がさらに評価が高まるような活動に結び付けていきたい。

年度末の大変お忙しい中、我々の視察にご協力いただいた、岐阜名古屋貨物運輸株式会社様に感謝とお礼を申し上げたい。

# 改革市民の会・保守系無所属 行政視察所見

委員名【 谷口 徹 】

- ◆視察日：令和6年3月25日(月)
- ◆視察先：岐阜名古屋貨物運輸㈱（岐阜県笠松町）
- ◆調査項目：2024年（物流）問題について

○2024年（物流）問題について 辻代表と面談

## 【会社概要】

岐阜名古屋貨物運輸㈱は、岐阜の本社と名古屋に営業所を持つ事業所で、所有する運送用車両は35台。積載車別には大型車と4t車がほぼ半数ずつのこと。

運搬の内容としては、主となるのは食品で中部地方を中心に、4t車を使用して搬送。他は特殊家具を扱っており、大型車で長距離輸送。関東・関西方面で4～500km。九州方面も稀にある。

## 【2024年問題】

○「従業者」 全体的に高齢化となっている。長距離運転手は特に顕著で、若くて40代前半、最年長は73歳が従事。免許制度改正の影響もあり、30代などの若手は食品（中近距離）担当となっている。常に求人しているが応募は少ない。外国人の雇用は不安が多く、実現は困難との考え。

○「労働時間上限等」 これまで運転手の裁量（先行出発、運行、休憩）に任せることもできたが、（勤怠）管理が義務付けられるので困難に。かえって休憩や仮眠が取れないなど、運転手の負担増となると予想。

○「事業運営」 時短による収入減対策に給与アップを考えるが、荷主の協力（契約額増）なしにはありえない。また、燃油高騰、高速道料金も追い打ちをかける。高速道料金の減免を熱望する。勤怠管理に事務量も増え、ITシステムの導入を検討するかもしれない。

## 【面談を終えて】

・物流業界においては、働き方改革が労働条件悪化に向かっていくのではと思った。

・業界の、収益や賃金の上昇・労働環境の改善には、荷主の理解やコスト増への助成も必要だが、制度の全体的な改革が必須。物流に係る、全業種と全省庁が連携し構築しなければならない。

・個人から団体の活動へ（啓発活動）、地方の実情を国へ伝達（要望活動）を起こすべきだと感じた。

議員名【野崎伸也】

【所見】

お忙しい中にご対応いただいた辻社長に感謝申し上げます。

現在、世の中ではどの業種においても人材確保が喫緊の課題と言われているがトラック運送業界においても人材不足は顕著で求人は常に行っているが人が入ってこない状況とのこと。貴社では現在働いている運転手さんを大事に長く勤めていただく努力を続けているとのこと。ドライバーへの苦情等があれば今までは怒る怒鳴るだったがなだめる様に注意するなど社長自身の変化もあったとのこと。結果的にドライバーは高齢化が進んでいる。最近、荷主に対する様々な補助金があったがこれが運送会社からの運賃値上げに反映されていない状況であった。切り詰めた経営を荷主側に理解してもらい運賃値上げに繋げることは中々難しい。ドライバー不足、運賃値上げもままならない状況ではまず中小の運送会社が廃業していく。これまで大手運送会社が出来ないところをカバーしてきた中小運送会社の存続がなければ荷物を頼む人が困る。頼む側もこれまで通りにはいかないことを理解してもらいたいとのことだった。国は2024問題への対策として様々な運輸方法、省力化、無人化、AI活用など取組んでいるが根幹である運送会社、特に中小企業への2024対策は何も無い状況と伺った。貴社ではドライバーの拘束時間制限対策で現在はほぼ高速道路を使用しているとのことで、高速道路の利用料金に対する何らかの支援があればありがたいという言葉があった。

今回の視察から国が進める働き方改革による弊害、良い取り組みではあるが間違いなく困る人がいるので、その責任として運送会社、特に中小運送会社への対策を講じる必要があると感じた。八代市議会から国に対し運送会社への対策を講じるよう意見書の提出を検討したい。

- ◆視察日：令和 6年 3月25日（月）
- ◆視察先：岐阜県大垣市
- ◆調査項目：かわまちづくりについて

岐阜県大垣市の「かわまちづくり」について視察させていただきました。

水都大垣市とアピールされている通り、各地に湧き水が出ていて、周辺環境に馴染んだ一体的な整備が行われており、その名を彷彿させるものであった。

現地も歩いてみたが、川とその周辺の街並みや整備には、風情を感じさせ、美しく、桜が開花していれば、もの凄く綺麗な桜と合間って、観光地として素晴らしい地であろうと思った次第である。

国土交通省のかわまち大賞を受賞されているように、川と一体的な整備後も積極的にイベントを開催され、市民の和みの場となっている事もうかがえた。

時には、我々の生活を脅かしたり、命を奪う事さえあるが、川と水は、我々の生活をしていく上では、切っても切り離す事ができない、必要不可欠なものである。

その川と水を歴史や伝統と文化を継承しながら、一体的な整備の手法やその場を有効に活用される手法等、とても参考になる説明と現地視察ができた。

今後の議員活動の中で、活かしていきたい。

また、余談になるが、説明をいただいた課長とは、初対面ではなかった。

本市の妙見祭が世界遺産であるユネスコ無形文化遺産登録の際に、全国の登録地から本市にお招きをして開催された全国大会と懇親会に出席をしていただいております、当時経済企業委員長を務めていた私も同席し、懇親させていただいた方であった。

記憶も薄れはじめる中、久しぶりの再会に当時の事を思い出し、嬉しく思う時となった。

年度末の大変お忙しい中、我々の視察にご協力いただいた、大垣市の皆さまに感謝とお礼を申し上げます。

# 改革市民の会・保守系無所属 行政視察所見

委員名【 谷口 徹 】

- ◆視察日：令和6年3月25日(月)
- ◆視察先：大垣市
- ◆調査項目：かわまちづくりについて

○かわまちづくりの取り組みについて 都市計画課

## 1 既存ストックの活用と地域の活動

- ・四季の路（ミニ奥の細道）＝松尾芭蕉が行脚した最終地。水門川沿いに桜の植樹と遊歩道の整備
- ・舟下り、たらい舟 ＝ 舟下りは平成3年の芭蕉祭から開始。平成15年からたらい舟も実施。
- ・市民活動 ＝ 水門川や自噴井の清掃等（民間の自主的活動）

## 2 かわまちづくり事業によるハード整備

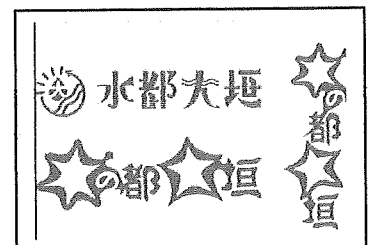
- ・親水護岸と親水公園の整備 ＝ 水門川の市役所西側部分を整備。既設の石積と整合をとる工法（石材の産地、目地）を採用。※護岸は県が一部助成
- ・丸の内公園の整備 ＝ 公用車置場を水辺のにぎわい場となる公園に

## 3 エリアの一体的なソフト事業の試み

- ・丸の内公園で実証実験（ランチボックスプロジェクト（2週間、屋台・キッチンカーが出店）＝ 同公園周辺のにぎわい創出
  - ・まるのうちテラス ＝ 毎週金曜日に丸の内公園でキッチンカー等が出店
- ※実施体制の中心は市都市計画課。同課管理の丸の内公園を開放。テラス開催等の道路占用申請や出店者への連絡等も同課が実施している。

## ○水都 大垣再生プロジェクト

メインロゴマークを制作（右図）



## 4 「これから」の取り組み

- ・歩道空間の整備（駅南口、四季の路）

## 【所感】

令和5年12月、「かわまち大賞（国交省）」を受賞。市、市職員が主体となって積極的に事業を推進している雰囲気を受けた。JR駅長や副市長（国土交通省から出向）の後押しも事業前進の一因と感じた。



改革・市民の会会派 管外視察所見

議員名【 野崎伸也 】

視察日時：2024年3月25日（月）10：00～11：00

調査項目：岐阜名古屋貨物運送(株) 2024問題について

- (1) 貴社の事業内容及び概要
- (2) ドライバー不足への対応
- (3) 今後の課題や問題点

※別紙参照

視察日時：2024年3月25日（月）14：00～15：30

調査項目：岐阜県大垣市 かわまちづくりについて

(1) 事業の概要

大垣市では、水門川の清掃活動が長年にわたり実施される中、平成28年から「かわまちづくり」をスタート。大垣市役所新庁舎の建設に合わせ、横を流れる水門川を活かした丸の内公園を再整備して、市民の憩いの場・新たな賑わいの場となる水辺空間を創り出し、水に親しむイベント「かわまちテラス」や、中心市街地の回遊性を生み出すイベント「まちなかスクエアガーデン」などを観光協会や市民団体等と連携して実施しています。

- ・既存ストック（水門川）の活用
  - 四季の路（ミニ奥の細道）、舟下り（春）、たらい舟（初夏）、たらい舟川遊び体験（夏・秋）
- ・地域活動
  - 水門川クリーン作戦&川底学習会、水門川おそうじ隊、民間自主清掃活動、クリーン作戦（大垣まつり・十万石まつりほか）、親子清掃活動（毎月第3日曜日）

(2) 取組内容

- ・施設整備と活用状況：かわまちづくり事業（L=150m）
  - 市役所調査横を流れる親水川護岸と親水公園を整備、併せて西側しかなかった遊歩道を東側にも整備。
- ・施工に関する工夫
  - 既設石垣と馴染むように過年度工事の玉石の入手先（産地）を調査し確保。石積の目地間隔を均等に割付け目地材が直線になるよう薄ベニヤを使用して施工する等の景観配慮も行った。
  - 市役所東側の丸の内公園の整備（整備前は公用車の駐車場として使用）  
水辺に新たな賑わいの場を創出（かわまちテラス開催などで活用）

→R2年11月～丸の内公園での社会実証実験（2週間平日に実施）

公園内に屋台を並べ公園内での飲食をOKとして楽しんでもらった

→R2年12月～毎週金曜日に様々な料理を提供するキッチンカーを配置。こちらは3年以上継続中。

- ・無料での場所貸出しに課題あり…

- ・この場所の占有主体、使用主体となることで飲食店は借用手続きが早く簡素化  
県、警察、市の街路公園課それぞれへの許可が不要になった

→R5年度～水都大垣再生PJの始動

- ・水（湧水）をさらなる街の魅力づくりに生かすためブランド化を図る

- ・メインロゴマーク選出（大垣女子短期大学デザイン美術学科学生作成）

- ・2023.7.7・8水都大垣かわまちテラスの開催

- ・水門川SUP体験会、大垣城ブルーライトアップ

### （3）事業の成果・効果

- ・かわまち大賞受賞について

→全国で進められるかわまちづくりから模範・先進的な取組を国交省が表彰。R5は計画登録している264カ所から大垣市が大賞に選出された。今後も河川空間を活用し水都大垣、湧水のまち大垣を全国に発信し更なる創出を目指していく。

### 【質疑】

Q：誰がやろうと言い出したのか？発起人は？

A：川に馴染む活用するとのことであれば青年クラブが平成3年に舟下りをはじめたのがきっかけと思われる。ただ、ずっと前から各町内や市民団体など多くの市民が幼いころから掃除をするなど携わってきた経緯がある。

かわまちテラス、水辺で乾杯などの企画は副市長（国から）のこんなあったらいいねとの声掛けからスタートした。

### 【所見】

湧水の街にふさわしく、市内のいたるところに水が出る所、触れる場所があり、整備してあった。八代市も川の水が豊富で枯れることは無いと思うが、農業・工業以外に客を呼びこむ手段として活用しようとの考えは無かったと思う。大垣市他、全国に市内を流れる川を利用した街づくり、観光への活用など八代市との立地的な違いはあるが、八代では市内を網羅する用水路の活用も考えられる。その前に、大垣市では川、湧水に感謝し幼いころから川掃除などで馴染んできた素地があったと学んだ。八代市においても幼いころから川の恩恵に感謝と馴染むことが出来るような取組が必要だと感じた。

研修では座学の後、市役所横を流れる親水川歩道を歩いて様々なハード整備箇所を説明頂いた。丁度、桜も開花した頃で歩いて散策するのも風情があった。川下りの最終地には大きな川湊灯台が昔のまま佇み情緒あふれる場所となっていた。ちなみに日奈久温泉にもこの灯台がある。歴史文化を残し活用することが大事と改めて感じた視察だった。

- ◆視察日：令和 6年 3月26日（火）
- ◆視察先：滋賀県近江八幡市
- ◆調査項目：滋賀県近江八幡市のVR 安土城について視察させていただいた。

視察冒頭、近江八幡市議会議長の歓迎の挨拶をいただいた。簡単に済まされると思いきや、視察項目である安土城や近隣のお城の事について、丁寧かつ詳細に説明を加えていただき感謝の念に尽きない歓迎のご挨拶をいただいた。

その後も視察に同席していただき、自ら私物の資料を取り出し、安土城の容姿はこんなものであったらどうかの資料や絵は見つかるが、復元をするために必要不可欠な図面が見つからない。と汗をかいて探してもその成果につながらない事を嘆いておられる様子が印象的であった。

それでも諦める事なく、図面を探しながら、市民に復元の理解を求めていきたいとされた。

八代市には、古麓城、麦島城、松江城（現八代城）の三つのお城の歴史を持っている。

江戸時代、幕府から一国一城令が発令される中、特別に許された八代城をなんとか復元できないものかと思う。

復元が叶えば、八代市民のモチベーションが上がり、市のランドマークとして、観光施設として活躍するに違いない。

財源の確保策としては、クラウドファンディングが一番適しているものと考えている。

市民の復元の機運を高め、関係者のご理解をいただけるように、近江八幡市の議長のように、復元を諦めることなく、根気強く言い続け、共に活動していきたいと思う。

年度末の大変お忙しい中、我々の視察にご協力いただいた、近江八幡市の皆さまに感謝とお礼を申し上げたい。

# 改革市民の会・保守系無所属 行政視察所見

委員名【 谷口 徹 】

- ◆視察日：令和6年3月26日(火)
- ◆視察先：近江八幡市
- ◆調査項目：RV安土城事業について

○RV安土城事業にて

岡田議長、文化振興課

・岡田議長が歓迎のあいさつとともに、自身の郷土史観を加味して、安土城復元に向けた考えを熱弁。安土城跡は国宝であるがゆえに、復元関連の開発（100億円？）が許可されず、過去に何度も苦渋と挫折があったとのこと。  
・事例として、近江鉄道（西武）によるロープウェイ架設計画もあったが、八幡山への変更となった。

## 1 事業の概要について

- ・スマホ・タブレット型VR安土城の復元 = 市内12ヶ所にビューポイントを設定。GPSを利用。
- ・シアター型VR安土城の復元 = 花園・大阪大学との共同研究、凸版印刷への委託 関連経費合計5,971万円。

## 2 事業の効果について

- ・高精度シアター型VR視聴者数 = 平成27年度から令和4年までに累計348,723人（年平均43,600人）
- ・スマホ・タブレット版 = アプリダウンロード件数は平成25～30年度で19,413人。
- ・ストリートミュージアムアプリ利用実績（実際のVRツアー体験者） = 平成29年から令和3年度で4,974人。

## 3 今後の課題

- ・飽きられないような活用方法の検討 ⇒ 更新が必要
- ・アプリの費用対効果の検証
- ・周遊の仕掛けづくり
- ・安土城築城450年（2026年）

## 【所感】

- ・歴史的建造物が消失した本市の城下町にはRVによる復元は有効。
- ・天守閣等の復元については、八代城跡の方が容易か。（財源あれば）

視察日時：2024年3月26日（火）10：00～11：30

議員名[野崎伸也]

調査項目：近江八幡市 VR 安土城について

(1) 事業実施の経緯

「安土城を幻のままでは終わらせたくない」との強い気持ちが根底にあった。図面等はほぼ無く、誰もが知る安土城、天主は想像の城だが、ヴァーチャルリアリティ技術活用し、幻の城・安土城の復元を行うことで、観光・文化振興などの一つのツールとして街づくりに役立てたいとの思いからスタートした。

(2) 取組内容

- ・ H22 年度 内部検討協議 計 31 回実施
- ・ H23 年度 VR 安土城創造会議 2 回開催  
PT ミーティング 5 回開催  
花園大学との共同研究 天主復元 3D モデルの作成 58.2 万円
- ・ H24 年度 VR 安土城創造会議 4 回開催  
PT ミーティング 4 回開催  
大阪大学共同研究 49.8 万円  
京都高度技術研究所 VR 安土城アプリ ISO 版作成 94.5 万円  
モニターツアー実施
- ・ H25 年度 大阪大学共同研究 49.9 万円  
VR 安土城アプリアンドロイド版作成 94.5 万円  
タイムスクープハンター（NHK）とのコラボ事業実施  
高精度 VR 安土城システム作成 凸版印刷(株) 3,723 万円
- ・ H26 年度 信長の館に高精度シアター常設 凸版印刷(株) 1,593 万円
- ・ H27 年度 著作物の利用に関する規則制定  
信長の館 VR ツアー開始、ポスターの作製販売開始、職員用名刺作成  
テレビ放映、雑誌掲載等への対応
- ・ H29 年度 城なび館でダイジェストムービーの公開開始  
VR 映像を利用したストリートミュージアムアプリ公開開始  
初期費用 72 万円 使用料毎年 73 万円

(3) 事業の成果・効果

- ・ 高精度シアター型 VR 視聴者数  
H27～R1 まではほぼ 5 万人で推移、R2、3、4 は 3 万、2 万、1 万人で減少。  
R5 は既に 3 月末で 5 万人以上が来場。
- ・ スマートフォンタブレット版 VR 安土城アプリダウンロード件数、H25～30 まで  
合計 19,413 件。
- ・ ストリートミュージアム利用実績（実際に安土に訪れた人）H29～R3 まで  
合計 4,974 人

(4) 今後の課題や問題点

- ・飽きられないような活用方法の検討→更新が必要  
機材が10年経ち古い、映像技術が進歩、R7年度更新
- ・安土城築城450年の取組  
安土地域の住民団体、経済団体、観光団体などにより安土城築城450年協議会を設立し取組内容等の検討実施。  
幻の安土城見える化計画→滋賀県の事業で安土城天主が見えるストリートミュージアムアプリの開発、安土城考古博物館リニューアル→多面スクリーンによるシアター
- ・安土城の再建について  
安土山(城跡)が国の重要文化財なので管理は滋賀県になる。近江八幡市はほぼ手が付けられない。また、図面等の資料が無いので文化財的な復元は難しい。

【質疑】Q：VR事業はもとより安土城復元について市民の反応や意見はあるか？

A：VRについてマイナスの意見は聞いたことが無い。市民にも良いものとして受け入れられていると認識してる。安土城復元については随分昔から復元の声があがっては消えていった。出来ない理由が多いため実現に至っていない。市民も理解していると思われる。

【所見】

まず、近江八幡市議会岡田議長より歓迎のご挨拶、引き続き今回の研修内容についてまた、近江の歴史、安土城に対する文献、再建に向けたこれまでの取組の歴史など等、多くの時間を割いて説明頂いた。安土城への愛、郷土愛に満ちあふれた方で我々の質疑含め最後までご対応いただいたことに心から感謝したい。

安土城の復元は詳細図面が無いので復元に許可が難しいのは八代城も同じ。今回視察したVRは映像ではあるがスマホやタブレットその他、画面の中には城が存在している状況が現場であたかもそこにあるように見れる。復元よりもはるかに手軽で官公庁の許可も要らなくなれば、まずは八代でも是非、VRを導入したい。VR導入を契機に城復元の機運を高めたい。

城が現存する街には住民たちの郷土愛があふれ、シンボルとして、街の誇りとしての意味合いの他、街を周遊する観光の目玉としても是非、八代城の復元を目指したい。